

講師による社会医学の専門領域に関する講義・講和、学生によるグループディスカッション・プレゼンテーションで構成した。今回のグループワークでは、社会医学の役割と課題に関し、参加者が考え理解を深めることに重点をおいた形式で行った。各グループの課題およびプレゼンテーション時に使用した資料の内容は第13回社会医学サマーセミナー報告書内に掲載した(後述資料欄参照)。また、セミナー参加者を対象に、社会医学のイメージ、社会医学の役割に関する理解度、社会医学の課題に関する理解度、社会医学の面白さ、社会医学の選択への関心、社会医学への興味についてセミナーの開始前、中間、終了時に評価を実施したところ、いずれの項目についても有意な上昇が認められた(後述資料欄参照)。

#### (倫理面への配慮)

本研究は、医師の卒前教育における公衆衛生学教育カリキュラムおよび効果的な教育技術の開発の一環として、パブリックヘルスマインドを養成する目的で「社会医学セミナー」のプログラムを実施した。セミナーの趣旨について、参加者にあらかじめ説明し、同意をした者が参加した。

#### D. 考察

近年、医学・医療を取り巻く社会の状況が大きく変わり、急速に変化している。地域保健、医療制度改革、食の安全や感染症といった問題なども踏まえると、国内においてもまた国際的にも社会医学の必要性・重要性がますます大きくなってきているといえる。また、社会が求めるニーズのなかに、社会医学が果たすべき役割が数多く存在しており、世の中の人々が社会医学の活躍を求めている。ところが、今の医学教育のなかでは、いろいろな社会医学の話、社会医学の重要性や意義についての話を聞く機会は十分とれなくなってきたり、このような状況下では、社会医学を担う人材を育てることが難しくなっている。一方、今回のセミナー参加者の課題に取り組む姿勢やセミナー参加

時の討議の内容及び交流会での意見を聞く限りにおいて、医学生が社会医学に対する関心は決して低くはない。医学生は衛生公衆衛生行政から国際保健まで広い範囲にわたる関心を持っており、またそのような関心に基づいて国内外の関連施設あるいはイベントへの参加を積極的に行っている。したがって、所属大学という枠をこえ、社会医学系の教員が、協力して社会医学に関心のある学生の教育にあたる社会医学サマーセミナーは、将来の社会医学を担う人材の卒前における教育の場として大変有効な場であり、過去の参加者の進路調査からも、社会医学に関する仕事に従事する医師の割合が高いことが明らかとなっている。また、今回の参加学生も社会医学サマーセミナーの意義を高く評価しており、今後もこのようなセミナーが継続して実施されることが望まれる。今回のセミナーから、衛生学公衆衛生学関連教室に所属する大学院生にグループディスカッションに加わってもらった。参加した医学生および大学院生の双方に教育効果が得られることが示唆された。セミナー形式によるパブリックヘルスマインドを育成する教育手法においては、社会医学へ何らかの興味のある参加者のリクルート、社会医学の第一線で活躍する講師による講義とグループワークの併用、PBLやケースメソッドを取り入れたグループワークの実施、講師と参加者によるフリーディスカッションの時間の設定などが重要な要素と考えられた。

#### E. 結論

社会医学サマーセミナーは、所属大学の枠をこえ、社会医学系の教員が協力して社会医学に関心のある学生の教育にあたることのできる有効かつ貴重な場であり、参加学生のパブリックヘルスマインド養成に効果をもたらすこと、将来の社会医学分野の医師確保に寄与することが期待される活動であることが明らかとなった。また、本セミナーは社会医学に関する新たな教育手法の開発と教育スキルの向上にも

寄与する可能性が示された。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

本研究の経過および成果を全国機関衛生学  
公衆衛生学教育協議会総会（松山：平成19年  
10月）で発表した。

第13回社会医学サマーセミナー報告書 全  
国機関衛生学公衆衛生学教育協議会  
2007:pp.113

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

(資 料)

# 第13回 社会医学サマーセミナー

主題: 接点としての社会医学を楽しむ

## 報告書

2007年10月23日

代表世話人: 高野健人

第13回世話人: 車谷典男・圓藤吟史

## 第 13 回社会医学サマーセミナー報告

第 13 回世話人 車谷典男・圓藤吟史

### 1. 日程

- ①2007年8月24日(金)13時半に開始し8月26日(日)11時45分に終了した。
- ②奈良県社会教育センター(奈良県葛城市)に現地集合し、2日目の午後に明日香村への study tour を兼ねてバスで共済組合会館・春日野荘(奈良市)へ移動し、翌日の正午前に現地解散。

### 2. 参加学生の内訳

- ①セミナーの目的と従来の参加人数(31 頁)を勘案して募集定員 40 人としたが、予定通りの参加人数を得ることができた。
- ②大阪での日本衛生学会の折に開催された衛生公衆衛生教育協議会(2007年3月25日)で、ポスター(33 頁)の配布とプログラムの概要説明をし、学生への案内と参加呼びかけを協議会会員に依頼した。
- ③サマーセミナー用の HP を作成し周知に努めるとともに、衛生公衆衛生教育協議会のメーリングリストを通じて学生への呼びかけを改めて依頼し、さらに過去のサマーセミナーの参加者で作っている学生のメーリングリストを通じての参加呼びかけもした。
- ④参加学生(32 頁)の内訳は次の通り。学部学生 37 人(1 年生 4 人・2 年生 3 人・3 年生 5 人・4 年生 7 人・5 年生 9 人・6 年生 9 人)・修士課程 1 人・博士課程 2 人、男性 22 人・女性 18 人、初回参加者は 37 人であった。
- ⑤セミナーの資料集(37 頁から 113 頁)を、参加学生と参加スタッフに郵送で事前配布した。

### 3. セミナーの教育目標

GIO：社会医学の視点・考え方を身につける。

SBO：①社会医学の役割を説明することができる。

②社会医学の課題を論じることができる。

### 4. プログラム：大きく 4 部構成とした(34 頁)。

- ①特別講義：自身の研究を素材とした各分野の専門家による特別講演。実際の研究過程、研究成果の紹介を通じて、社会医学の役割、重要性、面白さを参加学生に知ってもらうことを目的としたものである。
- ②小講演「私の社会医学」：なぜ社会医学の道を選んだかの個人的な体験の紹介を通じて、参加学生への動機付けを意図したものである。
- ③グループワーク：参加学生を 6 人程の小グループ(ほぼ学年順)にわけ、「社会医学の役割と課題」は何かについての自主的な討論を、セミナーの期間中に継続して行うことを求めた。
- ④グループ発表：上記③の成果(パワーポイントで 6 枚)を、最終日に各グループから質疑応答を含めて各 15 分発表の受けた(4 頁から 9 頁)。

## 5. セミナーの評価

セミナーの開始時および初日と 2 日目と最終日の各終了時に、無記名でセミナーへの評価を求めた(10 頁と 11 頁)。6 つの質問各々についてその時点の自分の位置をマーク(VAS)してもらう形式のものと、自由記入形式のものと用意した。

- ①3 頁に 6 つの質問の平均値の推移を示す。「社会医学への興味」は開始前から平均 7.0 と高い。当然の結果ではあるが、この質問も含めて全ての質問で、セミナー終了時に評価値の有意な上昇が認められた。とりわけ「社会医学の課題」さらには「社会医学の役割」については日を追うごとに有意な上昇をみせており、今回のプログラムがセミナーの目的を達成させる内容であったことを示唆する評価と考える。
- ②自由記入欄の意見を整理したものが 12 頁から 27 頁である。匿名化してある。セミナー参加時に「応募動機」を提出(109 頁から 113 頁)してもらっているが、読み比べると興味深い。「セミナーの改善点」(19 頁と 20 頁)についても率直な意見をもらっている。正味 2 日間の日程であり、多少詰め込みすぎたかも知れないと思っていた心配が多少現実となっている。次回からの課題である。しかし、全体的には肯定的な評価(21 頁から 27 頁)と考える。  
なお、参加スタッフの感想も掲載した(28 頁から 30 頁)。

## 6. 総括

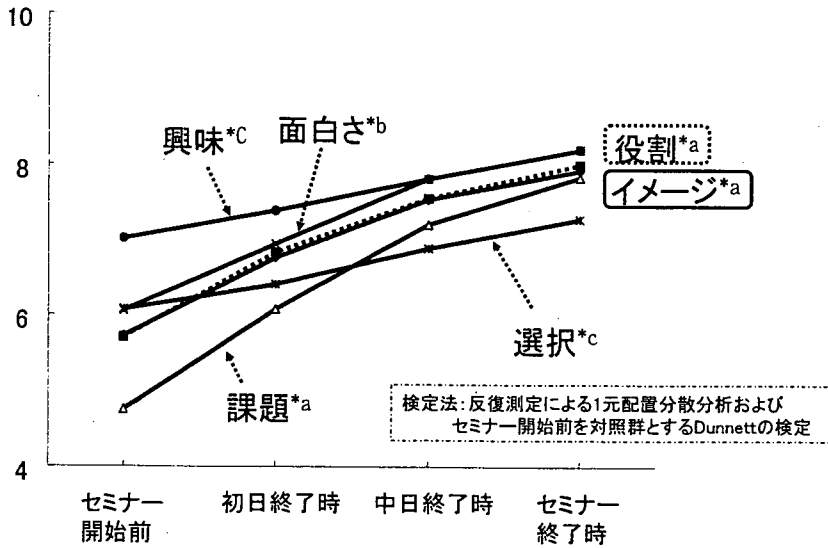
3 日間の短期間の評価であるが、本セミナーが社会医学の理解を深める機会として、また社会医学を選択する動機付けの機会として、その機能を果たしていることがうかがえた。セミナー形式であるために参加人数は限られているが、今後継続していく価値は十分あると考える。

現在のあなたの気持ち・考えは、1以上10以下のどのあたりに位置しますか。該当する位置の・印に○をつけてください。

セミナー開始時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
社会医学のイメージ	全く湧かない									十分に湧く
社会医学の役割	全く分からない									十分に分かる
社会医学の課題	全く分からない									十分に分かる
社会医学の面白さ	全く分からない									十分に分かる
社会医学の選択	全く関心がない									大いに関心がある
社会医学への興味	全くない									大いにある

### セミナー終了後の全体集計表(各10点満点)

	セミナー開始前	初日終了時	中日終了時	セミナー終了時
イメージ	5.7	6.8	7.5	7.9
役割	5.7	6.8	7.6	8.0
課題	4.8	6.1	7.2	7.8
面白さ	6.1	6.9	7.8	8.2
選択	6.1	6.4	6.9	7.3
興味	7.0	7.4	7.8	8.2



**解析結果**

- \*a:  $p < 0.001$ , すべての組み合わせに有意差あり
- \*b:  $p < 0.001$ , セミナー開始前と中日終了時、およびセミナー開始前とセミナー終了時に有意差あり
- \*c:  $p < 0.001$ , セミナー開始前とセミナー終了時に有意差あり

## 社会医学の役割と課題

### 第1班

松井聡, 中村枝美子, 武藤雄介,  
越智真一, 小山泰, 川村幸代

## セミナーを受ける前の 社会医学のイメージ

- ◆ 社会と関わって弱い立場の人を助ける医学
- ◆ ただ病気だけを見るのではなく、その人のバックグラウンドを理解して治療していくもの。
- ◆ 設備施設面から、裏方的に医療を助ける。
- ◆ 予防、研究がメイン
- ◆ バイアスを取り除いて研究し、数値化する。それを利用して医学に寄与する。(EB)
- ◆ 病院では患者が来なければ、患者と接することができないが、社会医学は自分から対象を決めて接することができる。

## 役割

- ◆ 感染症の拡大を止めることができる。
- ◆ 疾患(肺ガン等)の原因を突き止めることができる。
- ◆ 個人だけでなく社会全体を対象にして健康増進に勤める。
- ◆ 健康教育し、集団全体の健康意識を向上させ、疾病予防を促進する。
- ◆ 社会的弱者を守る。
- ◆ 医療と社会のパイプ役。
- ◆ 現場に行つて実情を逐次細かく知り、詳細に対策を提案できる。

## 課題

- ◆ 圧力があるとエビデンスがあっても話が進まないこと
- ◆ 疫学統計の本当の意味がわかってやっているかどうか、疑問の場合もある。
- ◆ 情報提供は根拠をもって、様々なことに配慮して行わなければならない。
- ◆ 集団を対象にするため、個人が軽視される危険性を含んでいる。
- ◆ 人手不足
- ◆ 問題が発生する前に対応することが最も重要であるが、意識変容がまだ不完全なので、実現に至っていない。

## 提案

- ◆ 医学以外にも目を向けて向学心をもって早期から自学自習!  
・経済学、社会学、疫学統計学、Political analysis 他
- ◆ 他分野(経済学、社会学等)との連携をより活発に行う。
- ◆ メディアでの広告宣伝を多用し、一次予防を強化する。その一方でフォロー体制も確立する。
- ◆ 簡略化したチェックシートを配布して、各家庭で自己診断してもらい、健康意識を向上させる。(結果報告で景品贈呈)

## 全体を通しての感想

- ◆ マイナーだがメジャーだと思った。
- ◆ 社会医学は世界規模だとわかった。
- ◆ 日本以外にも目を向けて行くことも必要だと思った。
- ◆ 社会医学だけでなくいろんな勉強をがんばろうと思った。
- ◆ 社会医学は予想以上に幅が広く、いろんなことができると思った。
- ◆ 社会医学はおもしろい



# 社会医学の役割と課題

第2班

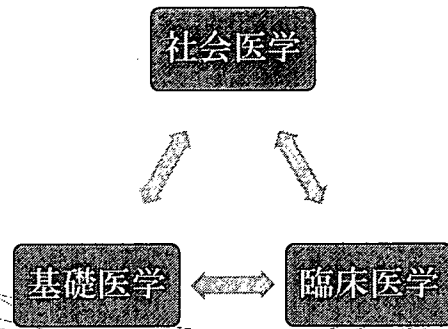
黒田真衣子 Jia Wenting

中村絵美 馬場啓介

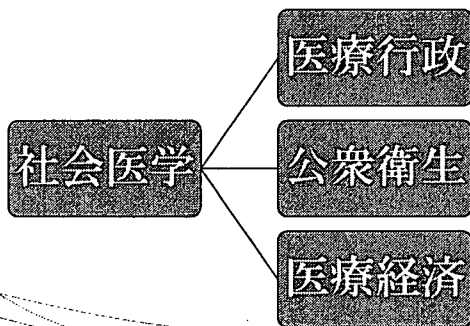
光井潤一郎 吉川真史

2007年8月26日(日)

## 社会医学の位置づけ



## 社会医学の構造



## 医療行政

- 個人情報取り扱い
- メディアとの関わり
- 医療ミス情報収集と管理
- 啓発活動

## 公衆衛生

- 予防医学
- 産業医
- 疫学研究

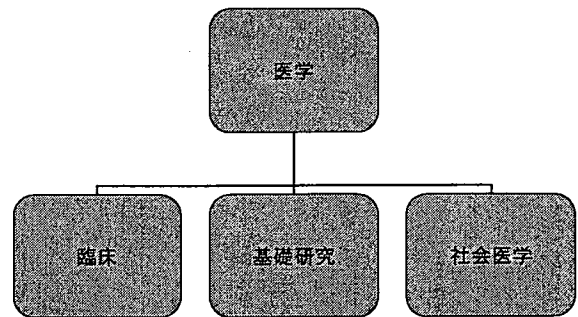
## 医療経済

- 医療費
- 公害補償費
- 研究費

## 社会医学の役割と課題 第3班 ～4年生の視点から～

皆川 光・堀 大介  
高野 英子・中村 菜美子  
石井茉衣・清水 俊恵

## 医学のイメージ



## 社会医学の発展の背景

- 病気の治療が主な対象となっていた時代  
↓
- 健康な生活を追求する時代  
↓
- 近年の社会医学への要請の高まり

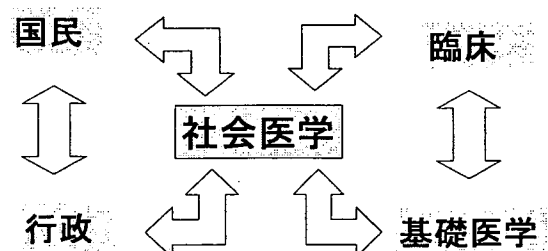
## 役割

- 疫学・統計学を用いた原因追究・社会への還元
- ・健康教育・衛生教育
- ・公害対策
- ・職業関連疾患への対応
- ・行政への働きかけ
- ・国際保健活動 など

## 課題

- 必要な連携がスムーズに行われているか？
- ・効果的な情報交換
- ・新たな健康被害への取り組み
- ・データの受け取り・分析結果の還元

## 接点としての社会医学



## 社会医学の役割と課題

第4班

永代祐司 上野暢一  
松井智美 中野紗也香  
高濱隆幸 猪瀬智子 上戸賢

## はじめに

医学を構成する三要素

基礎医学 →細胞を対象とする  
臨床医学 →個人を対象とする  
社会医学 →社会を対象とする

## 社会医学の役割

社会全体としての健康水準の向上

## 社会医学の役割

医療費の抑制

予防医学、健康教育 (population strategy)  
産業界の圧力 (根拠の無い情報の氾濫)

医療資源の効率利用

集約化、再配分  
医師の偏在・医療費の配分・多様な病院数

## 社会医学の役割

社会・医療の舵取り

明確な方向性を示す

疾病の社会的な背景を扱う

公害対策、産業保健、ライフスタイル  
産業との折り合い

## 社会医学の課題と展望

- ・臨床医のPublic mindの育成
- ・『事件は現場でおきている!』
- 臨床医と行政の温度差
- ・社会医学の重要性の過小評価
- ・社会共通資本をどういかにするか?

社会医学を実践していくため  
周りに広めていこう!!

第13回社会医学サマーセミナー 第5班

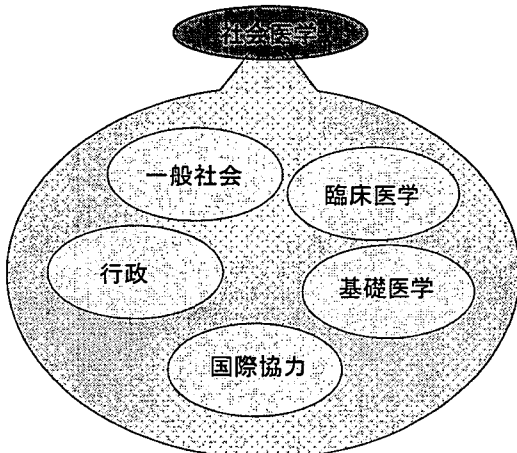
奈良県立医科大学5年	栗崎基
東京医科歯科大学5年	金子陽恵
金沢大学5年	石元玲央
旭川医科大学6年	中嶋駿介
防衛医科大学校6年	東野俊英
札幌医科大学6年	新田惇一
東京医科歯科大学大学院	清野薫子

社会医学の役割

医療における各領域の橋渡し

||

細胞におけるマトリックス



社会医学の現在の課題

- 認知されていない(イメージがわからない)  
なぜか?? 医学部でもminorityらしい...
  - 成果が目に見えてわかりにくい
  - 貢献しても感謝されない
- 資金不足(研究費)・人材不足
- 臨床医は忙しすぎて目を向ける余裕がない?

今後の取り組み

- 臨床の現場にPublic health mindを!
- 功績をもっとアピールしよう!!  
例えば...  
 政策を実現する根拠となったevidenceなど
- 学生が社会医学に触れる機会をもっと  
 作ろう!!!

社会医学サマーセミナー

社会医学ウインターセミナーもあつたらいいな...

最後に

全てを解決する手段の1つとして...

社会医学という名前を変えてしまえば?

公衆衛生? これもよくわからない...

⇒例えば...

「国民生活学(民生学)」「生活医学」「医療学」

「みんなの医学」「総合医学」「幸福の医学」

「楽しい医学」「楽しい医学」「医学くん」...

## 第6班 メンバー

- 林 久雄(佐賀大学)
- 森下 裕史(近畿大学)
- 朝倉 大貴(金沢大学)
- 山崎 政美(金沢大学)
- 川井 えりか(旭川医科大学)
- 小林 沙織(千葉大学)
- 白川 康一(大阪市立大学大学院)
- 平澤 卓(山梨大学)

## 社会医学とは

- みんなが健康でいられるように
  - みんなのQOLが良くなるように
- する学問だと考えました。

## 役割

色々な手段を使って社会に利益を還元する

- 健康の維持・増進
- 社会的不平等の是正(地域・職業など)
- 社会への啓蒙活動

## 現在の社会医学の課題

1. 専門家との連携が足りない  
臨床医学との連携  
医学部教育にもっと力を入れるべき！！
2. 一般市民との相互理解が足りていない  
研究成果を社会に還元をすること
3. 人材の不足

## 問題点

- 行き過ぎは危険！  
情報統制になりかねないか？
- 利害が一致するとは限らない。
- 社会医学者が対処すべき問題か？
- 情報提供におけるバイアス(行政、企業)
- 情報を国民が適切に理解・判断できるのか

## 提案

- 情報の出し方を工夫する
- 社会医学へのアクセスを増やす工夫をする
- 研究成果を提案して、積極的に啓蒙・教育に力を入れることが大切

匿名です。今後の社会医学サマーセミナーに活用させていただきます。

( 年生)

現在のあなたの気持ち・考えは、1以上10以下のどのあたりに位置しますか。該当する位置の・印に○をつけてください。

	←	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	→
セミナー開始時												
社会医学のイメージ		全く湧かない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に湧く
社会医学の役割		全く分からない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の課題		全く分からない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の面白さ		全く分からない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の選択		全く関心がない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いに関心がある
社会医学への興味		全くない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いにある

	←	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	→
初日終了時点												
社会医学のイメージ		全く湧かない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に湧く
社会医学の役割		全く分からない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の課題		全く分からない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の面白さ		全く分からない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の選択		全く関心がない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いに関心がある
社会医学への興味		全くない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いにある

自由記入欄

	←	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	→
中日終了時点												
社会医学のイメージ		全く湧かない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に湧く
社会医学の役割		全く分からない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の課題		全く分からない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の面白さ		全く分からない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の選択		全く関心がない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いに関心がある
社会医学への興味		全くない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いにある

自由記入欄

匿名です。今後の社会医学サマーセミナーに活用させていただきます。

( 年生)

← 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 →

最終日終了時点

社会医学のイメージ	全く湧かない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に湧く
社会医学の役割	全く分からない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の課題	全く分からない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の面白さ	全く分からない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	十分に分かる
社会医学の選択	全く関心がない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いに関心がある
社会医学への興味	全くない	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	大いにある

(1)特別講義・医系技官への誘い・私の社会医学のうち、印象に残った話を2つあげて、なぜ印象に残ったのか教えてください。

(2)あなたにとって、今回の社会医学サマーセミナーは有意義でしたか。あれば、どのような点であったか教えてください。

(3)今回の社会医学サマーセミナーで改善すべき点があれば教えてください。

(4)その他、自由記入

## セミナーはあなたに有意義でしたか(学年順)

非常に有意義だった。討論のメンバーに上級生が多く、夜中まで深い議論ができ、大変よかった。江副先生の私の社会医学 C は、医系技官を目指す上で、大変参考になる話ばかりで、お聞きできてよかった。留学したいと考えるようになった。(6年生)

まず、社会医学という学問の実像が見えてきたことが、とても有意義でした。臨床医になりたい私は、視点がやはり臨床に限定されがちですが、社会医学という分野の守備範囲の広さ、様々な他分野との連携の可能性をもった、とても大きな実践学問であることを知りました。それ故の重要性、必要性に気づけたことが、とても価値のある点でした。(6年生)

有意義でした。私は、労働衛生や産業医学に興味があり、将来どのように医師として仕事をしていくのか、考えたいと思い参加しました。実際に医系技官を目指す学生がたくさんいたり、社会医学に興味がある人の集まりということで、普段感じていることや考えることをディスカッションしながら、自分自身の特徴や自分の考えを見直すことができたように思います。専門家の方や厚労省の方のお話がいろいろと聞いたのも良かったです。なにより、日本の中にこれだけ興味がある学生がいることを知ったことは、将来一緒に仕事をするかもしれない人に出会えたことがよかったと思います。(6年生)

今まで考える機会の少なかった社会医学という概念について、今回のセミナーを通して自分なりにイメージができるようになりました。同時に、今まで自分がいかに社会医学について無知であったのかを、自覚することができました。私は、臨床医学の方面に進もうと考えていましたが、社会医学の考え方やおもしろさを知ったことで、将来の進路選択の幅が広がったように思います。また、他大学の学生と交流ができたことを、非常に有意義であったと思います。(6年生)

社会医学がものすごく広大なもので、マイナーな範囲であるというイメージを遥かに驚愕するもので、また社会におけるポジションという意識もわかって世界観が変わった。(6年生)

有意義でした。現場で働いている先生方のレクチャーの後の食事の際に、フランクに意思を交わらせることができ嬉しかったです。社会医学な見方をこれから忘れないようにしたいと思いました。(6年生)

大変有意義でした。大学において、社会医学に関する話題は、講座で研究されているトピックのみであり、社会医学とはある程度限定された範囲の学問であるという認識であったが、全国では多岐にわたる研究をされている方が多勢いらっしゃり、社会医学のすそのの広さ、ふところの広さを実感することができました。また、志や興味を同じくする他大学の学生と交流する機会を得られたこと。(6年生)

将来的に、行政関係の仕事をする可能性があるから、今回得たノウハウを活かしていきたい。(6年生)

とても有意義でした。今まで、大学の講義等でなかなかイメージしづらかった社会医学の分野について幅広くいろいろな視点から考えることができ、社会医学に対するイメージおよび印象が大きく変わりました。また、グループディスカッションを通じて、自分と同じように社会医学に興味のある人達と激しく議論を交わすことによって、「接点としての社会医学を楽しむ」というテーマの意味が少しわかったような気がします。(6年生)

自分にとって曖昧であった社会医学が、セミナーやグループ討論を通して、深くできるようになりました。(5年生)

将来の進路を具体的にイメージできた点、これから



の学生生活をどのように過ごしていけばよいのかが、分かった点で有意義でした。(5年生)

非常に有意義でした。社会医学に興味のある学生達が集まって、たくさん話ができました。また、社会医学についての理解も深まりました。社会医学の何が分からないのかということ(先生達がセミナーで語られていたことは「各論」で「総論」が見えていなかったからよく分からなかったのかな?と思いました)が、知れた気がします。(5年生)

大変有意義でした。他大学との交流に時間を費やすことができ、普段なかなかできない社会医学についての議論を経験できたことは貴重でした。(5年生)

普段、社会医学に興味がある仲間と話ができる機会は少ないので、今回のセミナーで同じ興味関心を持つ人と話ができ、有意義だった。また、実際に社会医学を仕事としてやっている先輩方のお話を聞くことができ、将来の進路として具体的なイメージがわいた。(5年生)

有意義でした。各大学の教室の先生方が多方面にわたって社会に貢献する研究をされているということを知ることができました。社会医学のイメージ、役割について具体的に学ぶ機会を得ることができて良かったです。また、2名の医系技官の先生方からお話を聞かせていただき、政治と関わっていく難しさや先生方の意気込みを感じさせていただきました。また、社会医学に関心を持つ同じ学生の方々と交流する機会を持つことができ、とても良い刺激となりました。自分自身も勉強不足であり、もっと社会医学について学び、学生の方々と交流させていただきたいという意欲をかきたてられました。(5年生)

6年生の医学教育への提言を聞いたことが、非常に有意義だった。また、多面的な社会医学をいろいろな立場の方から話されることで、社会医学への理解が深まった。(5年生)

2度目の参加は、1度目とはまた異なった収穫がありました。例えば、講師の先生方のお話からだけでなく、周囲の学生が社会医学にどうして興味を持ち、どの分野に興味があり、将来の進路をどうするのか、ということに関心を持って臨めました。(5年生)

社会医学に興味のある学生の多さに、大変驚きました(4年生)

私の通う大学で同じ学年の中では、他に「社会医学」に関心を持つ仲間は少なく、寂しく思っていました。今回のサマーセミナーでは、多くの学生の方々が、「社会医学」に興味をもち、問題意識をもっているということを知り、交流でき、とても嬉しく思いました。(4年生)

有意義だった。全国の医学生と討論して刺激を受けることができた。(4年生)

色々な先生の話が聞けた事が良かったと思います。将来何か思う事があった時には、まず公衆衛生の先生に相談しようと思いました。何か有効なアドバイスが必ず得られる安心感を感じました。(4年生)

現場で働いている人の話を聞いたこと。(4年生)

普段、他大学の学生と交流を持たない自分にとって、今回のセミナーは視野を広げるよい機会になりました。社会医学に興味がある学生同士で語り合うのは面白かったし、全国には、色々な学生がいるんだなと感じました。(4年生)

有意義でした。特別講義を聞かせていただき、医療をめぐる様々な社会問題を知り、これらの問題に関する思考のきっかけになりました。(3年生)

有意義でした。やはり、通常では大学の講義以外で公衆衛生、衛生学の話聞くことはできません。そのため、このような機会が多くのお話を聞いたこと

で、社会医学が様々な点に接点を持っていることがわかりました。また、熱心な他大学の学生と、話したり意見を聞いている中で、自分ももっと勉強していろんな考えを持てるようになりたいと思いました。モチベーションがあがりました。(3年生)

有意義だった。社会医学が追求する問題が明らかになったと思う。自分の将来考えたい問題も少しだけ明白になった。先生方と直接お話をさせて頂くことができ、楽しかった。(3年生)

公衆衛生学に興味のある人たちと話ができたこと。(3年生)

有意義でした。「社会医学って何だろう」と思って、このセミナーに参加したのですが、グループ発表、討論等、先生方以外の意見を、真剣にきける場だったので。<先生の話も、もっと(高学年になれば分かることもでてくるだろうけど...)深く理解できれば、面白かっただろうけれど、今回は知識不足もあり、それが残念なところでした。>(2年生)

社会医学という一見分かりにくいものを、様々な講演等により非常に分かりやすく、かつ興味深く知ることができ、今後学んでいく上で、いい足がかりになったと思いました。(2年生)

有意義だった。社会医学とは何か?そこの何に特に興味があるのかを考えるきっかけになった。(2年生)

まだ、勉強しておらず、理解できない単語も多々あったが、モチベーションが上がったので、大変有意義でした。(1年生)

非常に有意義でした。社会医学には、全く無知であったが、その中でも多様な視点からの話を聞くことができ、漠然とした社会医学のイメージが輪郭だけではあるものの、幾分か明らかになったと感じた。さらに、グループ討論とそれを通じた発表により、

新たな視点を得られた上、自分の意見を整理するのが役立った。(1年生)

社会医学について、興味を持っている人が、これだけいるということがわかったこと。幅広い分野の専門家の先生から直接簡略ながら聞くことができ、自分が将来どんなことをしてみたいか、自分にはどんな選択肢があるのかをある程度具体的に知ることができたこと。(1年生)

多様な医師像を知ることができた。多様な医学生を知ることができた。多様な症例を知ることができた。(1年生)

社会医学の分野を幅広く知る機会を得ることができ、とても有意義なセミナーだったと思います。(修士)

疫学分野の理解が、より深まったように思った。(博士2年生)

全国の医学生と真剣に話し合う機会があり、皆がどんな考えを持っているのか、今の医学教育では、こういう思想が生まれるのか、など色々と刺激になりました。(博士4年生)

## 印象に残った講演とその理由(学年順)

私の社会医学 B (河野先生) HF の話で産業医というのは非常に重要だと初めて実感した。河野先生に授業に来ていただきたいし、先生の研究室に魅力を感じた。セミナーVI (廣田先生) インフルエンザワクチンについて、ずっと疑問だったのが、解決できた。(6年生)

職業性肝ガンの話、社会医学的アプローチが、どんな立場の人も可能であることがわかり、臨床に進んでも社会医学の考え方を生かしていく機会をうかがっていいと思いました。インフルエンザワクチンの話、社会医学は大切であるというのみならず、例えば疫学的視点の欠如が、社会に実害として現れてくるという“必須性”に気づかされました。(6年生)

セミナーIII 国際協力で共有すべき基本的認識というのは、社会医学の他の分野でも非常に重要だと思ったから(尊重、コミュニケーション、立場 etc)  
セミナーVI 冷静に数値や現象と向き合うことが大事なんだと実感できた。(6年生)

「私の社会医学」B 引用されていた事例も具体的でわかりやすく興味を引くものであり、産業医の重要性について改めて考えさせられました。感染症と社会医学 日本の社会と医療について考えさせられました。(6年生)

若手医系技官の先生の話において、WHO の総会に行った話や専門的な学位がアメリカに行かないと取れないという話が興味深かった。明日香村教育委員会の北村先生の日本の歴史の裏話みたいなのが非常に興味深かった。(6年生)

神ノ田先生の「医系技官のツール」という話で医系技官へのイメージがよくなってきました。また、仕事の軽いグチを聞いて親近感がわきました。江副先生の診療報酬に関する話を聞いて、若くして日本の医療に大きく影響を与えている姿にカッコ良さを

感じました。(6年生)

厚生労働省行政と医系技官の役割 話の仕方が大変上手であり、内容も実際に拘わっている方でなければ、できないような裏話等についてお話されており、興味深かった。感染症と社会医学 社会医学の視点から常識と思われているような事柄をとらえ直すことによって社会全体にとって大きな貢献をすることができた事例を知ることができたので。(6年生)

「私の社会医学」B 化学熱傷、産業保健について、具体的な話を聴けて良かった。セミナーVI、インフルエンザワクチンの公衆衛生において、興味深い話を聴けて良かった。(6年生)

ガン登録について 臨床医学と関連づけてお話をしていただき、社会医学の視点からみた問題点、および臨床医学の視点からみた問題点があり、それぞれ独立しているわけではなく、互いに関連づけて考える必要があると思いました。古都奈良の都市問題都の移転に関しては公衆衛生も大きな影響を与えていると感じました。また、文字という新しく入ってきた文化を伝えることの難しさも感じました。(6年生)

神ノ田先生の話 医療政策の中心にいる方の生の声は、新聞や本で知ったものより重く心に響きました。  
江副先生の話 医系技官を目指す自分にとって道標となる話はとても興味深かったです。(5年生)

「私の社会医学 A」「私の社会医学 B」学生時代どのようなきっかけで社会医学に進んだのか、どのような点についてやりがいを感じているのかを、具体的に伺うことができて、とても参考になりました。また、疫学のおもしろさ、その重要性に気付くことができました。社会医学に進んだ場合の進路を具体的に考えられるようになったので、この2つのお話が

印象に残っています。(5年生)

私の社会医学 B パワフルでした。産業医の役割を初めて知れる機会だったと思います。セミナーVI 感染症と社会医学 疫学の考え方というか、知識の応用の仕方が感染症を通じて知れた。(5年生)

江副氏の提示された話が一番印象に残りました。社会医学のみならず、医学に生きる者すべてが持つべき考えであると思いました。北村氏の話も印象に残りました。普段聞くことができない世界の人の話は非常に刺激になります。(5年生)

「働く人々の健康と病気をみつめて」河野公一先生 労働者が、国内でも海外でも劣悪な環境で作業を強いられていること、重篤な労働災害の悲惨さと、それを予防医学がどう防いでいくかについてお話くださって、予防医学の重要性を強く感じる事ができた。「なぜガン医療にガン登録制度が必要か」森満先生 臨床と社会医学の関わりを感じる事ができるお話で、興味深かった。(5年生)

2 つに絞りきれないのですが、先生方の実践されている内容に感銘を受け興味深く聞かせていただきました。山縣先生のご講演から、住民を対象にした息の長い研究から実際に住民の方々に研究成果を還元していくことができるということを感じました(住民に始まり住民に終わる)。また、Evidence を出して具体的に社会を動かすためのアプローチをしていく重要性を学ばせていただきました。また、江副先生のご講演では、先生がリーダーシップについて話して下さったことが印象的でした。裏方となり、正しいかじ取りをして、促進役となっていく存在の重要性を感じました。(5年生)

徳留先生の話全てで、社会医学に関った人生の面白さを、伝えてくださったことがとても良かった。そして、医系技官の話の中で、行政の中でエビデンスに基いた厚生行政を行おうとしても、できない背景があることを知り、新鮮に感じた。(5年生)

セミナーV 「寓者は経験には学び、賢者は歴史に学ぶ」祖先の失敗に学ぶところは大きいと思いました。セミナーIII political technical ethical analysis 政策実現の為の3要素が、簡潔にまとまっている。(5年生)

医系技官の仕事は国を支えることができるという事に驚きました。私自身は、このセミナーに参加するまで医系技官の存在を知らなかったので、勉強になりました。河野先生の現場の危機管理が十分でないという話は印象に残りました。(4年生)

竹下先生の「遺伝子研究と社会医学」「努力しても強くないには、努力が足りないわけではなく、遺伝子によるものだということがわかり、すっきりした」この表現に表れているように、生活に密着し、とても身近なテーマで研究をなさっていることに興味をもちました。山縣先生の「健康弱者を支える科学」母子保健活動にも力を入れておられ、地域全体を守っていこうという姿勢に強く共感しました。(4年生)

医系技官の方のお話は、すごく印象に残った。今まで、そんな仕事があるのも知らなかったし、大きな仕事だということが分かった。(4年生)

神ノ田先生が、とても大変な事をさらりと話されていたのが、印象的でした。とても超人的で、ある意味畏怖さえ覚えました。(4年生)

HF の話、時間差で症状が出る、ほんのちょっとで命に関わるなど、厄介なものがあるのだなあと。社会医学はテロリズムの対抗にもなるのだとわかり、力強く感じた。他は、よく覚えてないです。(4年生)

「日本の社会医学を海外で生かす」(高野先生) 今までは、国内のことだけしか考えることができなかったが、今回初めて海外での活動に目を向けることができた。厚生労働省医系技官が語る(江副先生) 若